九州地方プリント No.10

答えの 選択肢の ○を 1つだけ ぬる。
まちがえたら けしゴムで けす。

名前

出席番号　　必要な人は書く

問1　鹿児島県周辺に広がるシラス台地において、古くから稲作よりもサツマイモや茶などの畑作、または畜産が盛んに行われてきた理由として最も適切なものはどれですか。

- ○ 土壌に含まれる有機物が多すぎて、稲の成長が早すぎるため。
- ○ 土壌が非常に硬く、田を耕すことが困難であるため。
- ○ 土壌の保水力が低く、水が地中にしみ込みやすいため。
- ○ 標高が高く、夏でも気温が上がらず冷害が発生しやすいため。

問2　沖縄県の農業は、温暖な気候を活かした亜熱帯農業が特徴です。農業産出額の品目別割合を示した統計において、さとうきびなどの工芸作物を含む項目の割合が約40パーセントに達し、全国的に見ても独自の構成となっています。この項目に含まれる、沖縄県で生産が盛んな代表的な工芸作物はどれですか。

- ○ 稲（米）
- ○ 茶
- ○ さとうきび
- ○ 野菜

問3　九州地方のある県における2019年の農産物産出額の統計では、上位から順に「肉用牛」、「豚」、「ブロイラー（鶏）」、「鶏卵」となっており、上位4品目すべてを畜産関連が占めています。このような特徴を持つ県として最も適切なものを選びなさい。

- ○ 福岡県
- ○ 宮崎県
- ○ 鹿児島県
- ○ 熊本県

問4　宮崎平野や高知平野で行われている促成栽培には、生産者にとってどのような利点があるか。最も適切な説明を選べ。

- ○ 夏の冷涼な気候を利用して、暑さに弱い野菜を品質良く栽培できる。
- ○ 広大な土地を利用して、大型機械を使った効率的な生産ができる。
- ○ 消費地である大都市に近いため、新鮮なまま輸送コストを安く抑えられる。
- ○ 他の地域が出荷できない時期に出荷することで、高い価格で販売できる。

問5　北九州市では、かつて経済を支えた鉄鋼業などの重厚長大産業が衰退し、産業構造の転換期を迎えています。1980年ごろを境に人口減少が続いている状況において、都市の土地利用に見られる変化として最も適切な説明はどれですか。

- ○ 鉄鋼業の再興を待つため、工場跡地は一切の手を加えられず放置されている
- ○ 広大な工場跡地が、住宅地や商業施設へと再開発されている
- ○ 食料自給率を向上させるため、工場跡地のすべてが農地に転換されている
- ○ 人口減少を食い止めるため、工場跡地をすべて大規模な公営墓地にしている

問6　鹿児島県では農業産出額が全国トップクラスであるとともに、製造品出荷額の第1位を「食料品」が占めています。このように、鹿児島県の工業において食料品工業の割合が高い理由として最も適切な説明はどれですか。

- ○ 広大な平野を利用した稲作が中心であり、余った米を酒類や菓子類に加工して大都市圏へ大量に輸送する体制が整っているため。
- ○ 高速道路沿いに半導体工場などの先端技術産業が集積したことで、そこで働く労働者向けの冷凍食品製造が急増したため。
- ○ 県内で盛んな畜産業や畑作によって生産された農畜産物を原料とし、それらを加工して付加価値を高める産業が発達しているため。
- ○ 大規模な港湾施設を活かして海外から安価な穀物を輸入し、臨海部のコンビナートで加工してから全国に配分しているため。

問7　人口増減率がプラス〇点四七パーセントを示している沖縄県の産業構造について、統計資料から読み取れる特徴を説明したものとして、最も適切な記述を選びなさい。

- ○ 広大な平原を利用した大規模な機械化農業が中心であり、製造品出荷額も全国トップクラスである。
- ○ 海面漁業の漁獲量が国内最大であり、それに関連する食料品製造業の出荷額が県内産業の半分以上を占める。
- ○ 製造品出荷額は全国的に見て低い水準にあるが、温暖な気候を活かした畜産業などが盛んである。
- ○ 人口増加に伴い、自動車産業などの重化学工業が急成長し、製造品出荷額が九州地方で最大となっている。

問8　鹿児島県の農業において、米や野菜の生産額よりも畜産の生産額が圧倒的に多くなっている背景として、自然環境の面から説明したものとして最も適切なものを選んでください。

- ○ 冬でも温暖な気候を利用して、大消費地向けの野菜を他の地域より早く出荷する促成栽培に特化したため。
- ○ 火山噴出物によるシラス台地が広く分布し、水はけが良すぎて稲作に適さない土地を有効活用するため。
- ○ 平野部が極めて狭く、山地での放牧が唯一の農業手段として古くから定着してきたため。
- ○ 梅雨時期の降水量が極端に少ないため、乾燥に強い家畜の飼育が地域の主要産業となったため。